



博士課程に「戻る」 という選択は？ —進学か就職か、 迷いから抜け出すために

博士課程に進学して研究を続けたい気持ちもあるけれど・・・

進路の迷いを抱える修士課程院生も少なくないでしょう。本講習会では、修士課程修了後に大学から離れて就職し、しばらく後に博士課程に入り直して研究者の道を歩んでいる方を登壇者として招きます。

就職・再入学・研究活動のプロセスとそれに同期するライフイベントにおいてどのような苦労や学びがあったのか、経験的なアドバイスやメッセージを提供してもらいながら、座談会風に意見交換をしましょう。

奮ってご参加ください。

- 対象者 女性修士課程院生、先着20名（男性も参加可）
- 日時・場所 **12月3日（水）15:00-17:00 @ 西本館25番教室**
- 参加申込先 キャリア支援室大学院部門（宮澤） miyazawa.kiyomi@dm.hit-u.ac.jp

登壇者

佐々木 綾子 氏(千葉大学普遍教育センター 特任講師)

2001年米国修士課程修了。NPO法人勤務後、財団法人に勤務しながら2005年社会学研究科博士後期課程入学、2010年修了。2010年-2013年学振特別研究員(RPD)を経て、2013年より現職。二児(小2と4歳)の母。

専門分野は社会福祉学、国際社会と福祉政策。主論文に、Human Trafficking and Slavery: Current Anti-Trafficking Efforts in Japan, Globalization Approaches to Diversity (INTECH, 2012)など。

嶋津 拓 氏(埼玉大学日本語教育センター教授)

1986年に社会学研究科修士課程修了。1986-2006年、国際交流基金に勤務。同基金在勤中、言語社会研究科博士後期課程に進学し、2003年に修了。長崎大学教授を経て、2013年より現職。

専門分野は、社会言語学・日本語教育学・国際関係論。主として、海外諸国の言語教育政策と日本の海外に対する日本語普及政策との関係について研究。

山本 章子 氏(日本学術振興会特別研究員DC2/本学社会学研究科博士後期課程)

2007年に法学研究科修士課程修了。2007-2012年、第一法規出版に勤務。同社在勤中、社会学研究科博士後期課程に進学。2013-2014年、日本学術振興会特別研究員DC2。

専門分野は、冷戦史・日米関係史。主として、1950年代の米国の海外基地政策について研究。